

データを活用した事前防災の浸水対策が始動します！

横浜市下水道浸水対策プランの策定

近年、気候変動の影響で降雨量等が増加傾向にあり、浸水被害が激甚化・頻発化する中、将来にわたり、横浜市民の安全で安心な生活を確保するためには、降雨によるリスクをしっかりと見極め、先手を打って対策を講じていくことが今後ますます重要になります。

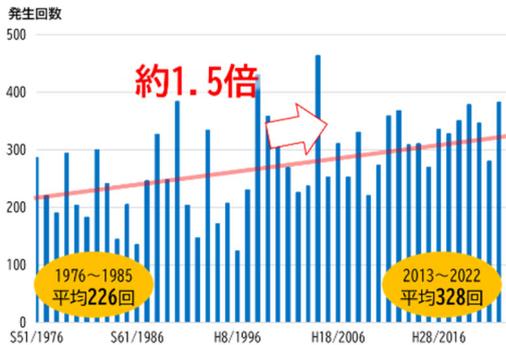
そこで、これまでの浸水対策の進捗状況や気候変動の影響を踏まえた雨に強い強靱なまちづくりを一層推進することを目的として、下水道による浸水対策の目標や対策の進め方など、これからの下水道による浸水対策をとりまとめた「横浜市下水道浸水対策プラン」を新たに策定しました。



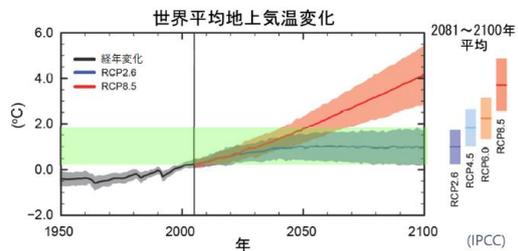
横浜市下水道浸水対策プラン(表紙・背表紙)

気候変動の影響

- ・ 日本全国で1時間あたり50mm以上の強い雨の発生回数が約40年前に比べて1.5倍に増加
- ・ パリ協定の、世界の平均気温上昇を2℃より十分低く保つ目標を達成した場合でも、2040年頃には横浜市で降雨量が1.1倍に増加する予測が示されている。



全国の1時間あたり50mm以上の降雨の年間発生回数の推移



地域区分	降雨量変化倍率
北海道北部、北海道南部	1.15
その他14地域(沖縄含む)	1.10

世界平均地上気温変化、降雨変化倍率



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



横浜市下水道浸水対策プランのポイント

➤ これからの浸水対策

雨の強さにより、3段階の目標を設定し、防災・減災対策を推進

防災対策	減災対策	
浸水を防ぐ目標	甚大な被害を防ぐ目標	命を守る目標
下水道からあふれさせない	下水道からあふれても 床上浸水をさせない	大きな浸水時も 安全な避難の確保
【対象降雨】 目標整備水準を 1.1倍に引上げ 5年確率：47.2mm/hr⇒51.9mm/hr 10年確率：57.9mm/hr⇒63.7mm/hr 30年確率：74.2mm/hr⇒81.6mm/hr	【対象降雨】 1時間あたり100mm ・横浜市の既往最大降雨 ・2019年9月観測（栄区上郷）	【対象降雨】 1時間あたり153mm ・国が定める想定最大規模降雨 ・1999年、千葉県で観測
雨水幹線・雨水調整池・ ポンプ施設などの 下水道施設の整備	既存ストックの有効活用、 雨水流出抑制、ソフト対策	内水ハザードマップの 普及啓発による 自助・共助の促進

下水道浸水対策における3つの目標

➤ データを活用した事前防災の浸水対策

本市特有の精緻な浸水シミュレーションを活用して浸水リスクを評価し、浸水リスクが高い地区から先手をうって施設整備を進める「事前防災」の観点で浸水対策を推進



浸水リスク評価

計画の公表について

計画の全文及び整備対象地区は、横浜市ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kasengesuido/gesuido/bousai/keikaku.html>

なお、計画冊子は、以下の場所で配布・閲覧しています。

- ・下水道河川局マネジメント推進課（市庁舎 24 階）
- ・市民情報センター（市庁舎 3 階）
- ・各区役所広報相談係



横浜市ウェブサイト

参考：市民意見募集の結果

本プランの策定にあたり、素案に関する市民意見募集を実施しました。

いただいた意見の概要とそれに対する横浜市の考え方などの詳細は、計画とともに横浜市ウェブサイトに掲載しています。

実施期間：令和6年12月24日から令和7年2月14日

提出者数：55名

意見数：89件

お問合せ先

下水道河川局マネジメント推進課担当課長 小林 史幸 Tel 045-671-2613



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

